

## JRグループ労組連絡会

### 「第29回総会」を開催

【スローガン】  
加盟単組・労使が一丸となってこの難局を乗り越え、安全・安心で将来に希望が持てるJRグループを創造しよう！

8月27日、京都市内において第29回総会を開催し、2021年度活動方針（案）が満場一致で決定されました。当日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、リモート出席を併用し、感染防止対策を徹底したうえで、貨物連合からは総会委員の南関東ロジ労組山田委員長、エリア連合担当の貨物鉄産労小山執行委員が出席しました。

JR連合荻山会長・グ

ループ八木幹事長、各々より御挨拶を頂戴し、質疑では各分科会からコロナ禍や災害における甚大な被害、組合員の雇用不安、公的支援制度の延長・拡大を求める発言があり、総会委員の南関東ロジ労組山田執行委員は、陸運分科会の立場から、「バス産業が深刻な状況であるため、交通労協と密な連携・公的支援の継続・拡大の取り組み、陸運全体の問題でもある目録賃金未到達・働きの価値に見合った水準への引上げ、特殊手当の比重が高い賃金処遇制度の改善、2022春闘について「等を発言し、貨物連合の立場からは、「日頃より、貨物連合に対し厚い御支援を頂き感謝申し上げます。現在、大雨被害により山陽線・中央線・九州地区の多くの路線が被災した影響で、JR貨物の一番の稼ぎ頭である東京（夕）〜福岡（夕）で多くの運休が発生し、

九州・中国・南関東ロジでは大幅な作業ダイヤの変更となっているが、安全安定輸送に向け安全最優先の作業に努めていく。ここ数年、毎年のように甚大な自然災害が起き、鉄道貨物輸送にも多大な影響が出ており、JR連合が掲げる鉄道強靱化の早期実現に向け、互いに取り組みんでいきたい」と述べました。

最後に、新体制が発足され、奥村代表幹事（東海交通事業労組）による「団結頑張り」で総会を閉じました。

コロナにより、JR産業は大きなダメージを受けており、いつコロナが収束するのか先行きが全く読めない不安感が陥っています。JRグループ労組連絡会は、この不安感を一掃し、JR産業に集う全ての仲間と家族の幸せを実現するため、結集する加盟単組が一丸となって闘っていきます。



## 日本人の寿命は延びても、病気や事故はなくなりません。

どんな事故に遭うか、いつ病気になるか、誰にでも予測はできません。その時になってあわてないように、しっかりしたガードが大切。それが家族への責任です。



家族の幸せを大きくサポート

## 交通災害共済/生命共済/入院共済

契約引受団体：明治安田生命保険相互会社

みんなで暮らしをガード  
交運共済  
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合